

〈総会報告〉

平成25年度 EICA 総会報告

平成25年度 EICA 総会と論文賞表彰式が開催されましたのでその概要を報告します。

開催日：平成25年5月13日（月）
 会場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」
 6階 大会議室
 総会：
 第1号議案 平成24年度事業報告
 第2号議案 平成24年度決算及び監査報告
 第3号議案 平成25年度事業計画案
 第4号議案 平成25年度予算案
 第5号議案 評議員改選案
 選考委員会報告：功績賞，平成24年度論文賞
 表彰式（功績賞，論文賞）



1. 開会の辞と会長挨拶

総会に先立ち、司会の内藤聡氏（総務委員，株式会社タクマ）から開会の辞があり，続いて会長の清水芳久氏（京都大学大学院工学研究科）から挨拶がありました。

2. 議長，議事録署名人の選出

議事の審議に入るに当たり，小浜一好氏（副会長，横浜市環境創造局）を議長に選出し，総会議案に従い審議が進められた。

冒頭，議長より出席会員57名，委任状提出会員89名，合計146名で，会員総数310名の5分の1である62名を越し，会則第13条により，本総会が有効に成立されたことが報告されました。

また会則14条により議事録署名者として議長の小浜氏の他，佐藤明雄氏（副幹事長，安川電機株式会社）と新井善明氏（副幹事長，株式会社明電舎）が選任された。

3. 議案審議

(1) 第1号議案 平成24年度事業報告

議長の指名により，各委員会委員長から平成24年度の事業報告があった。

総務委員長：森寺弘充氏（東亜ディーケーケー株）
 企画委員長：田子靖章氏（メタウォーター株）
 編集委員長：井手慎司氏

（滋賀県立大学環境科学部）

各委員長の事業報告後に，議長より第1号議案についての質疑・承認可否が諮られ，満場異議なく，原案

通りに承認された。

(2) 第2号議案 平成24年度決算及び監査報告

議長の指名により，倉田学児氏（事務局長，京都大学大学院工学研究科）から平成24年度決算報告書に基づき，収支決算報告および，説明があった。

続いて，会計監査の結果について，佐藤大毅氏（監事，三菱電機株式会社）より，決算報告が妥当かつ正確であった旨を報告した。

その後，議長より第2号議案についての質疑・承認可否が諮られ，満場異議なく，原案通りに承認された。

(3) 第3号議案 平成25年度事業計画案

議長の指名により，各委員会委員長から平成25年度の活動計画案について説明があった。

総務委員長：森寺弘充氏（東亜ディーケーケー株）
 企画委員長：田子靖章氏（メタウォーター株）
 編集委員長：井手慎司氏

（滋賀県立大学環境科学部）

その後，議長より第3号議案についての質疑・承認可否が諮られ，満場異議なく，原案通りに承認された。

(4) 第4号議案 平成25年度予算案

議長の指名により，倉田学児氏（事務局長，京都大学大学院工学研究科）から平成25年度予算案について説明があった。

その後，議長より第4号議案についての質疑・承認可否が諮られ，満場異議なく，原案通りに承認された。

(5) 第5号議案 評議員改選案

議長の指名により，倉田学児氏（事務局長，京都大学大学院工学研究科）から評議員等の改選について，

一部の評議員の交代案について説明があった。

その後、議長より第5号議案についての質疑・承認可否が諮られ、満場異議なく、原案通りに承認された。

その後、総会は一時的に中断となり、平成25年度第1回評議委員会が開催され、一部の評議委員の交代が認められた。

すべての審議事項について満場異議なく、原案通りに承認され、議長から平成25年総会が終了したことが宣言された。

4. 選考委員会報告と表彰式

議長の指名により、佐藤茂雄氏（副選考委員長、(株)明電舎）より功績賞と平成24年度論文賞の選考結果について報告があり、会長より、功績賞受賞者には賞状と記念品、論文賞受賞代表者には、賞状、副賞、記念品が贈られました。

功績賞：間處威俊氏（前事務局次長）

論文賞（3編/論文賞候補論文10編）

①「火葬炉からの酸性ガス、水銀および微小粒子の排出挙動」

大下和徹，高岡昌輝，塩田憲司

（京都大学大学院工学研究科）

江口正司（太陽築炉工業(株)）

②「アルミニウムを用いたPAC注入制御方式の実証」

三宮 豊，横井浩人，田所秀之，舘 隆弘

（(株)日立製作所）

③「琵琶湖北湖表層における天然有機物（NOM）の分解特性」

日下部武敏，秋田泰典，大谷壮介，清水芳久
（京都大学大学院工学研究科）

岡本高弘，早川和秀

（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

5. 調査専門委員会報告

当学会 東日本大震災調査研究専門委員会を代表して中里卓司氏（名誉会員）から活動の経緯と活動報告、今後の活動として、ハリケーン・サンディ調査研究グループの活動計画が報告された。

